

城西児童センター

特色
3



遊戯室ではスポーツもできます



センター入り口。わきにはスロープも



児童クラブ室でいろいろな活動ができます

運動体験広場と 新建材のデッキ

特色
2



ゴムテック舗装の中庭(運動体験広場)



リサイクル新建材のデッキ



食堂でみんなで食事します



メディアセンターには、図書とパソコンがあります



大館能代空港開港5周年

市長リポート

No 251

「ちょっとそこから ずっと遠くへ あきた北空港」をキャッチフレーズに、大館能代空港(愛称・あきた北空港)が開港して、早5年。この7日には記念イベントを開催し、開港5周年を祝います。この間、圏域住民を始め、たくさんの方々にご利用いただき、順調に旅客数を増やし、昨年度の利用者は過去最高の16万9、342人に達するなど、地方空港としてはかなり健闘しています。これまでのご利用に、感謝申し上げます。

昭和62年8月、県北部の3市15町村で空港建設促進期成同盟会を設立して以来、フライト預金や陳情活動、署名活動などの熱心な活動が実を結び、平成10年7月18日の開港にこぎつけました。当時は、札幌便もあり、首都圏や関西圏、北海道がぐっと身近になり、地域に与えた影響は計り知れません。

大館能代空港の開港で、時間と距離の感覚が変わったことと思います。朝の飛行機で東京へ行き、夕方に東京から帰るといって、日帰りができるようになったことでビジネスチャンスが広がりました。また、かつては夜行列車を使うことが一般的だった大阪へも、ほんの90分ほどで到着できるため、こちらからの観光客はもとより、関西圏からの観光客も大幅に増えています。さらに、修学旅行で利用する学校が増え、短時間にずいぶんと遠くまで行くことができるようになりました。仕事に、観光にと、これからも大館能代空港の重要度は高まる一方です。今以上に便利な空港とするため、産業の振興、観光PRの強化を図りながら、東京行きの3便化、大阪便の通年運行、残念ながら、現在、運休している札幌便の再開に向けて、これからも圏域住民の方々と一緒になって、粘り強く取り組んでいきたいと考えています。

小物
え